

4. アイデア/アプリの内容

① 応募作品の機能概要



スキャン:

スマートフォンのカメラでゴミを撮影し、AIがゴミの種類を認識します。収集日やリサイクル方法に関する大分市の情報を元に、子どもたちにわかりやすく説明します。



アシスタント:

生成AIチャットを通じて、お住まいの地域のゴミの収集日やゴミの出し方を質問できます。チャットを通じてリサイクルやSDGsについて学ぶことができ、子どもたちの興味を引きます。



カレンダー:

どの画面からでも簡単にアクセス可能なゴミ収集カレンダー。子どもたちは自分の地域のゴミ収集に関するスケジュールを確認できます。

4. アイデア/アプリの内容

② アイデアまたはアプリの利用対象者



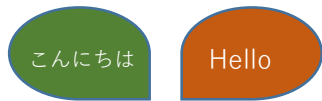
対象者:

- 小中学生

ゴミの分別やリサイクルに関心を持ちつつ、SDGsについて学びたい子どもたち。
視覚的な要素を取り入れたゲーム感覚の学習を好む子どもたち。

- 保護者や教育者

子どもたちに環境問題やリサイクルについて教育したい保護者や教育機関。



フレンドリーなキャラクターと多言語対応:

こどもたちが「ゴミダス」と一緒に学ぶという設定により、参加しやすい環境を提供します。

日本語が母国語でない大分の子どもたちや保護者も、日本語が理解できる方と同じようにアプリを楽しむことができるよう、多言語表示のサポートが行われています。

4. アイデア/アプリの内容

③利用者のメリット



インタラクティブな学び:

スキャン機能と生成AIチャットによる対話形式で、子どもたちはゲーム感覚でゴミの分別やリサイクルに取り組むことができます。視覚的でインタラクティブな学びが、興味を引き、主体的な理解を促進します。



SDGsへの理解深化:

子どもたちはアプリ内の生成AIチャットを通じて、SDGsに関する知識を深めることができます。また、リサイクルに興味を持つことにより、具体的なSDGsの目標と関連付け、グローバルな課題に対する理解を広げます。



継続的な学びと実践:

子どもたちはカレンダーを使ってゴミ収集スケジュールを継続的に確認し、日常生活にリサイクル活動を組み込むことが期待されます。生成AIチャットを利用することで、清掃・リサイクルの知識を身につけるだけでなく、生成AIチャットの内容を確認する習慣を身につけ、間接的にITリテラシーも向上させることができます。

4. アイデア/アプリの内容

④オープンデータの活用方法



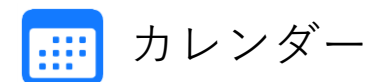
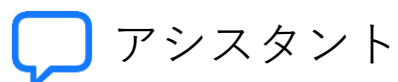
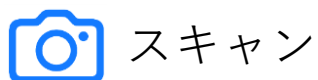
大分市が公開している地域ごとのごみ収集カレンダー情報から、ご自宅の地域を設定することによりお住まいの地域でのゴミ収集情報にアクセスできます。

大分市ごみ収集カレンダーオープンデータ：

https://data.bodik.jp/dataset/442011_garbage_calendar

4. アイデア/アプリの内容

⑤画面遷移・操作方法 - 基本画面

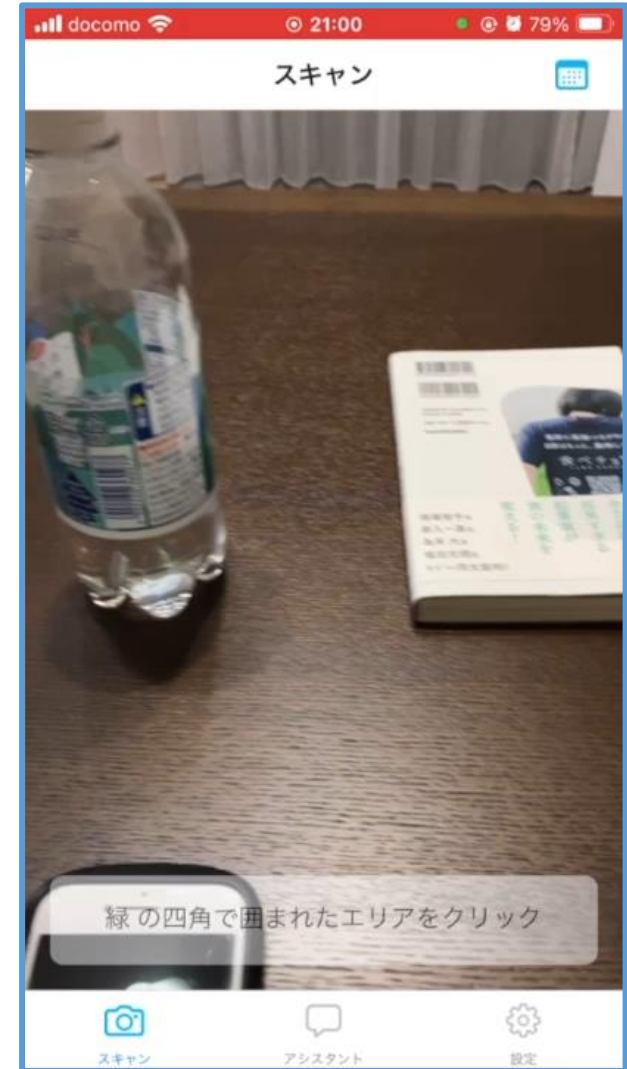


4. アイデア/アプリの内容

⑤画面遷移・操作方法 - スキャン

カメラでゴミ（リサイクル物）が認識されると緑色の枠がでます。その認識された対象物をタップすると、その対象物の住んでいる地域でのゴミ収集日などに関する詳細が表示されます。

また、大分市の取り組みやリサイクル、SDGsに関する情報も生成AIチャット(ChatGPT API)によって提供されます。



サンプル動画

4. アイデア/アプリの内容

⑤画面遷移・操作方法 - アシスタント

自由な形式で、ごみの収集日やりサイクル、SDGsに関する質問を生成AIに対して行えます。

質問は日本語だけでなく、多言語で入力が可能であり、AIは入力された言語に基づいて適切な回答を生成します。



サンプル動画

4. アイデア/アプリの内容

⑤画面遷移・操作方法 - カレンダー

ごみ収集カレンダーは、スキャンやアシスタント画面からいつでもアクセス可能です。初期表示は週単位ですが、月表示にも切り替え可能です。

日付下のドットの色で特定の収集日が分かり、これは家庭のゴミ収集カレンダーと同じ色調です。

大分市のゴミ収集に関する詳しい情報もアプリ内で手軽に閲覧できます。



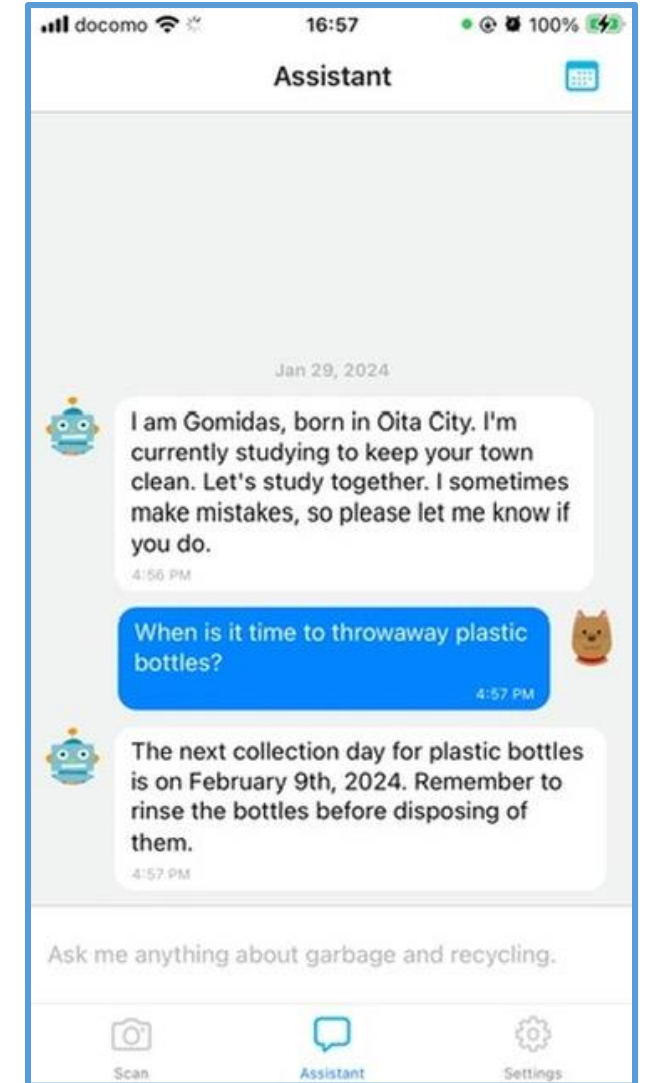
サンプル動画

4. アイデア/アプリの内容

⑤画面遷移・操作方法 - 設定

アプリでは、お住まいのエリアを選択できます。

デバイスで使用されている言語により表示が最適化（ローカライズ）されます。



4. アイデア/アプリの内容

⑤画面遷移・操作方法 - フィードバック

フィードバック機能による生成AIチャットの返答の評価が可能です。レスポンスの改善に役立てます。

このプロセスにより、生成AIチャットの学習材料と収集できるだけでなく、生成AIとの向き合い方を理解するITリテラシーの教育にも利用されます。

